

# 6月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

29年6月のDI値は8指標中、「取引条件」と「雇用人員」が小幅ながら上昇。残り6指標は下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

自動車販売・整備業や板金工事業等では、引き続き需要が好調。また、家電製品小売業では、気温の上昇に伴い季節商品の動きが活発であり、生コンクリート業においては、民需に関して今後の新規需要が見込める事について前向きな声が寄せられた。

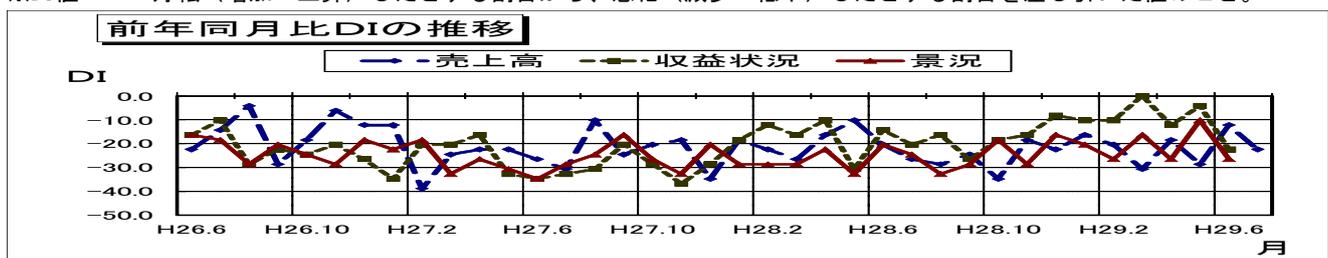
一方、慢性化する労働力不足問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復基調が続いていると言われているものの、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H28 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	H29 6月	前月比 増減
景況	-20.4	-24.5	-32.7	-28.6	-18.4	-28.6	-16.3	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-16.3
売上高	-26.5	-28.6	-24.5	-34.7	-18.4	-22.4	-16.3	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-10.2
収益状況	-14.3	-20.4	-16.3	-26.5	-18.4	-16.3	-8.2	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-18.3
販売価格	-10.2	2.0	-8.2	-6.1	6.1	2.0	4.1	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-10.2
取引条件	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	4.1	2.0	4.1	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	4.1
資金繰り	-10.2	-10.2	-10.2	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-10.2
設備稼働度	-11.1	-38.9	-33.3	-22.2	-5.6	-11.1	-11.1	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-4.1
雇用人員	-20.4	-22.4	-16.3	-16.3	-16.3	-12.2	-16.3	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	4.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・前月から一転して、生産量、出荷量とも3ヶ月ぶりに前年同月比100%を超え、業況も好転してきた。主原料の大豆は価格が安定しているものの、米は価格上昇が続いており、収益状況は横這い状態である。

#### <木材・木製品>

2. 製 材・売上高増加。収益状況不変。総じて業況に大きな変化はない。
3. 製 材・一進一退の状況で先行きが不透明である。
4. 木 材・原木丸太は虫害等も出やすく、出材量は少ない状態が続いている。また、この時期は買い控えの傾向にあり、価格も底値となっている。製材製品需要も厳しい状況で売上高増加は難しく、未だ体制変わらず推移している。
5. 木 材・月が変わるごとに木材業界全体の仕事件数が少なくなっており、景気に対する先行き不透明感が強まりつつある。

#### <印 刷>

6. 印 刷・売上高不変。収益状況不変。6月までは総会など定期的な行事があるが、7月になった途端に閑散とした状態になる。イベントや行事を追いかけ、お客様からさらなる需要を引き出す工夫をし、実行していかなければならない。
7. 印 刷・前年同月比では、各社若干受注減である。毎年5月下旬から7月にかけては閑散期であるが、今年は例年より悪いようだ。この先、用紙価格の動向も不透明な上、顧客に対して色々な仕掛けをしても動きが鈍い。官公需も期待ができない中、業務領域を拡大したり、ソリューション営業を展開したりと早急に次の手を考えないといけないのだが、具体的にどうすればいいのか分からない。中央会及び行政庁への要望事項として、地方の印刷業者は官公需関連の印刷物に依存するケースが多い。地元資本の商工業者からの発注が減り続けるなか、雇用の確保と健全経営維持のため、官公需関連の適性価格での発注をお願いしたい。また、官公需において、成果物の納品時に製作途中で使用するデータの提出が求められることが多いが、もう一度知的財産権等を見直して頂きたい。

#### <窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・6月の出荷量は、昨年同月比微増。長かったトンネル工事もいよいよ佳境に入り、出荷量は微増となったが、一時的なものであり全体的には年々減少傾向にある。

9. 生 コ ン・6月は例年と比較し、好天気恵まれ、出荷数量は対前年同月比2%増加となった。今後、民需を中心に新規需要を見込める事により、前年数量を上回ると予想される。業界は高齢化が進んでおり、後継者不足でもある。新規採用の時期であるが、人材確保は進んでいない。

#### <鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・今月頃には業況が若干好転するかと期待を寄せていたが、大きな変化はなく、売上高、設備操業度とも総じて横這い圏で推移している。一部で設備投資の動きも見受けられるが、依然として先行き不透明感が強く、今後の景気動向が注視される。
11. ス テ ン レ ス・先月より業況に大きな変化はなく、国内は大手企業に比べて中小企業の動きはまだ十分ではない。海外情勢も不安定な状況であり、全体としては先行き不透明な状況が継続している。

#### <一般機器>

12. 機 械 金 属・売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化は見られない。景気、設備投資ともに緩やかな回復傾向が見られるものの、依然として将来に対する先行き不透明感が強く、景気回復の実感に乏しい。また、労働需給の引き締まり傾向により、中小企業への人手不足が深刻である。

#### 【非製造業】

#### <小 売 業>

13. 機 械 器 具・先月と業況に変化はない。
14. ショッピングセンター・昨対比はスーパー95.5%（食品95.6%、衣料95.2%）、専門店98.1%であった。店舗全体では昨対比96.8%という結果であった。専門店の業種では、食料品が好調を維持。また今月は、装身具や文具品等の身の回り品の店舗が好調であった。先月同様、食料品と大手100円ショップは売上が伸びているが、それ以外の店舗は売上に苦戦している。
15. プロパンガス・売上高減少。収益状況悪化。定例会にてメーカーによる、レンジフードの新しい性能やお手入れの仕方等についての講習会を開いた。顧客にもレンジフードの良さを周知し、売上高増加に繋げていきたい。
16. 電 気 機 器・売上高不変。収益状況不変。気温の上昇に伴いエアコンの動きが活発化してきたが、映像関連機器は変わらず動きが鈍い。その他の冷蔵庫や洗濯機等の白物家電は、買替え需要により堅調に推移している。
17. 畳 小 売 業・売上高減少。収益状況不変。空梅雨の為、納品はスムーズにできるものの、今年も梅雨明けに畳替えをして欲しいとの要望は多い。カビ対策にも力を入れて、売上高増加に繋げていきたい。

#### <商 店 街>

18. 徳 島 市・6月は例年より暑さが厳しかった為、夏物商品の動きが活発だった様子。イベント等により人の動きも増加傾向であるが、全般的には昨対比不変であり、直接売上増には結びつかない。

19. 阿南市・客足鈍く、全体的に横這いであった。

<サービス業>

20. 土木建築業・売上高不変。収益状況不変。6月は修正予算要求資料作成や業務発注がある為、多忙である。今年度の徳島県への予算要求は、四国地方整備局割り当ての半分程になり、整備局から相当な減額を要求されているようだ。事業箇所はあるが、中間前金払と部分払の併用が決まっている事業を優先する為、他の事業は縮小せざるを得ない。一方、維持管理やメンテナンス工事は多くなりそうだ。

21. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比+9.6%の1,649台、中古車は+34.3%の529台、合計では+14.7%の2,178台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+20.6%の1,271台、中古車+15.6%の497台、合計は+19.1%の1,768台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比+16.6%の3,946台。登録自動車（普通車）、軽自動車ともに販売台数が好調である。特に登録自動車（普通車）は、過去5年間において最高の売上を3ヶ月連続で更新中。収益状況（車検や点検整備等のサービスの売上）に関しても、登録自動車（普通車）+9.1%、軽自動車+7.6%と微増。

22. 旅行業・6月も業況はあまり良くなかったようだ。

23. 広告業・6月初めは大型ショッピングモール開店の反動で少し落ち込んだが、徐々に持ち直し、いつもと変わらない状態である。

<建設業>

24. 建設業・平準化発注とは掛け声ばかりであり、公共工事の発注が少ない。

25. 鉄骨・鋳造事業・対前月比業況は不変である。

26. 板金工事業・今年の梅雨は雨が少なく順調に施工が出来ているが、人手が足りなくて苦労している。

27. 電気工事業・売上高は不変であったが、新設住宅口数は216件、対前年比92.7%と微減。

<運輸業>

28. 貨物運送業・一般貨物輸送は例年6月は低調であるが、今年は特に昨年よりも低調に推移。しかし、他方青果関係は、今後量的に増加する為、収益増加が見込まれる。軽油平均単価は前月比約1円強値下がりしたが、月末より上昇に転じた。

29. 貨物運送業・業況に大きな変化はなし。7月1日から、荷主都合による30分以上の荷待ちは「乗務記録」に記載が必要となる。トラックドライバーの長時間労働の要因の一つとなっている荷待ち時間削減に向けて、乗務実態を把握するため、車両総重量8トン以上又は最大積載量5トン以上のトラックに乗務した場合、荷主の都合により30分以上待機したときはその内容を記載するよう義務付けられた。国土交通省では、荷待ち時間等の実態を把握することで、トラックドライバーの労働環境を改善する事を目指している。